

## 前回定例会（平成30年4月12日）以降の主な動き

平成30年5月9日  
資源エネルギー庁  
柏崎刈羽地域担当官事務所

### 1. エネルギー政策全般

#### (1) 総合資源エネルギー調査会基本政策分科会（第26回）【4月27日開催】

エネルギー政策基本法第12条及び総合資源エネルギー調査会令第6条の規定に基づき、エネルギーの需給に関する基本的な計画（エネルギー基本計画）などについて検討を行う。

現行のエネルギー基本計画（平成26年4月策定）は、策定から3年が経過。エネルギー政策基本法で定められている検討の時期になったため、平成29年8月から新たな議論を開始。

第26回は、エネルギー情勢懇談会を踏まえたエネルギー基本計画の骨子案について議論。

### 2. 電気事業関連

#### (1) 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会 制度検討作業部会（第22回）【4月26日開催】

電力システム改革の目的（①安定供給の確保、②電気料金の最大限の抑制、③事業者の事業機会及び需要家の選択肢の拡大）達成に向けて、各制度の実効性を高めるため、実務的な観点を十分に踏まえるべく、幅広い関係者に意見を求めつつ、詳細制度の検討を行う。

第22回は、間接送電権、容量市場に関する既存契約見直し指針、ベースロード電源市場について議論。

### 3. 新エネ・省エネ関連

#### (1) 総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会（第5回）【4月17日開催】

再生可能エネルギーの大量導入とそれを支える次世代電力ネットワークの在り方について、政策対応の具体化に向けた検討を行う。

第5回は、系統制約の克服に向けた対応などについて議論。

#### 4. その他

##### (1) 水素閣僚会議開催に係る発表【5月8日発表】

経済産業省及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、本年10月23日、「水素閣僚会議」を開催することを発表。

同会議では、世界の主要な水素関係国の閣僚、民間企業等の参加を得て、各国の革新的な取組や最新の知見、国際連携の可能性を確認するとともに、グローバルな水素利活用に向けた政策の方向性について議論を深め、認識を共有する。

日時：2018年10月23日（火曜日）

場所：東京都内を予定

開催形式：講演、プレゼンテーション及びパネルディスカッション

出席者（予定）：各国政府、国際機関、水素関連企業

主催：経済産業省、

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

（以上）

エネルギー情勢懇談会 提言のポイント  
 ～ エネルギー転換へのイニシアティブ ～

- **可能性** ➔ **野心的シナリオ** 「エネルギー転換、これによる脱炭素化への挑戦」  
 脱炭素化への挑戦を主要国も主要企業も標榜  
 エネルギー転換に向けた国家間の覇権獲得競争の本格化
- **不確実性** ➔ **複線シナリオ** 「あらゆる選択肢の可能性を追求」  
 他方で、非連続の試み、主要国は野心的だが決め打ちなし  
 再エネ一本のドイツより全方位の英国、仏などが優れた成果  
 経済的で脱炭素の完璧なエネルギーがない現実  
 電源別コスト検証から脱炭素化システム間のコスト・リスク検証へ
- **不透明性** ➔ **科学的レビューメカニズム** 「最新情勢で重点をしなやかに決定」  
 地政学情勢、地経学情勢、技術間競争の帰趨は全て不透明  
 常に技術と情勢を360度観察し、開発目標と政策資源の重点を設定  
 一度定めた重点を、更なるレビューメカニズムで修正・決定
- **複雑で不確実な環境でのエネルギー転換** ➔ 「3E+S」の要請を**高度化**
  - **安全最優先** ➔ **技術とガバナンス改革による安全の革新で実現**
  - **資源自給率** ➔ **技術自給率向上＋選択肢の多様化確保**
  - **環境適合** ➔ **脱炭素化への挑戦**
  - **国民負担抑制** ➔ **自国産業競争力の強化**
- **福島事故** ➔ **再エネは経済的に自立し脱炭素化した主力電源化を目指す**  
 その中で、**原子力依存度は低減**
  - **再エネ** ➔ **水素・蓄電・デジタル技術開発 送電網再構築 分散型ネットワーク開発**  
 ➔ **主力化に向け、人材・技術・産業の強化に直ちに着手**
  - **原子力** ➔ **実用段階にある脱炭素化の選択肢**  
 ➔ **社会信頼回復必須 このため安全炉追求・バックエンド技術開発**  
**人材・技術・産業の強化に直ちに着手。福島事故の原点に立ち返った**  
**責任感ある真摯な取組こそ重要**
  - **化石** ➔ **過渡期主力 資源外交強化**  
 ➔ **火力ガスシフト・非効率石炭フェードアウト・高効率石炭技術傾注**  
**低炭素化＋脱炭素化貢献 これにより資源国とのエネルギー連携**
- **エネルギー転換への総力戦** ➔ ①内政・外交 ②産業強化・インフラ再構築 ③金融

# 第5次エネルギー基本計画の骨子案の構造

## はじめに

- 東京電力福島第一原子力発電所事故の経験を踏まえた立ち位置

## 第1章 構造的課題と情勢変化

- 構造的課題（資源海外依存、人口減少等 ⇒ 骨格維持
- 情勢変化と対応 ⇒ 最新情勢の反映
  - － 2030年エネルギー基本計画 → 3年経過の見直し
  - － 2050年シナリオ → パリ協定対応
  - － 最近の情勢変化への対応

## 第2章 2030年に向けた基本方針と政策対応

### 第1節 基本方針 ⇒ 骨格維持

- 第4次計画の骨格維持、実現重視
- 基本的な方針
  - － 3E+S
  - － 各エネルギー源の位置づけ（再エネ、原子力、化石等）

### 第2節 2030年に向けた政策対応 ⇒ 実現重視のための政策の深掘り

- 省エネ（熱・輸送等）・・・各部門の省エネ深掘り
- 再エネ・・・高コスト是正、既存送電網開放等
- 原子力・・・社会的信頼回復、安全最優先再稼働
- 火力・・・発電高効率化、販売電力の非化石化
- 水素、システム改革、資源確保、供給網強靱化 等

## 第3章 2050年に向けた挑戦 ⇒ 情勢懇提言の反映

- 野心的な複線シナリオの採用～あらゆる選択肢の可能性を追求～
- 2050年シナリオの設計
  - － 「より高度な3E+S」
  - － 科学的レビューメカニズム
  - － 脱炭素化エネルギーシステム間のコスト・リスク検証
- 各選択肢が直面する課題、対応の重点
- シナリオ実現に向けた総力戦